

特集

# 子どもたちの福祉活動を応援する人材を育てよう!

## 「福祉学習サポーター講座」の事例紹介

新教育課程、学校週5日制の導入にともない、子どもたちがV活動に参加する機会が増えてきました。今後、子どもたちが地域や学校で福祉について学ぶためにも、それを応援する地域の人々の存在が重要になってきます。

そこで今回の特集は、現在社協が取り組んでいる「福祉学習サポーター講座」の事例を取り上げ、プログラム内容を紹介するとともに、子どもたちが福祉について学ぶことを応援するための地域全体としての人づくりとサポート体制等についてまとめてみました。

### 1年間を通して実施する 本格プログラム

福祉学習サポーター養成講座  
(福井県勝山市社会福祉協議会)

#### 福祉教育サポーターとなる人材を育てたい

勝山市社協では19年前より、福祉教育指導員という制度を設け、市内の小・中・高等学校において手話や点字、アイマスク等の体験学習を行ってきた。また、子どもたちが参加できる地域のイベントを実施するなど、福祉のまちづくりに向けた取り組みも積極的に進んでいる。

総合的な学習の時間が始まり、福祉学習に取り組む学校がこれまで以上に増えてくる中で、子どもたちの学習の成果を、生活の場や日常的な活動・実践につなげていくためには、福祉教育指導員の後継者を育てていく必要性が高まってきた。

そこで昨年、民生委員・児童委員やV連絡協議会、教育委員会、当事者団体、行政など地域の様々な団体に福祉教育への理解を求め、委員会を結成。「幅広く福祉の心をもつリーダーを、市民やボランティアの中から掘り起こし養成する」ことを目的に、社協と市民の協働による「福祉学習サポーター養成講座」が平成14年1月にスタートした。

#### 地域の様々な機関・団体から受講参加

同講座は、講義・実習・グループワークを中心としたカリキュラムで、前期(1月～3月/全6回)、中期(5月～7月/全6回)、後期(8～9月/全4回)に分かれている。また、委員会を通じて受講の呼びかけを行ったことで、ボランティアや民生委員・児童委員、障害当事者・団体、教員など地域の福祉・教育に関わる様々な人材が集まるとともに、定員を大幅に上回る48名の参加となった。

ここでは、既に実施された前期講座のプログラムを紹介する。

前期プログラム		
福祉について考える		
回	日時(毎土曜日)	内 容
第1回	1/12 13:30～14:00 14:00～16:00	開講式・オリエンテーション グループワーク 「福祉についてイメージを出し合う」  日常生活の中で自分自身の福祉観について話し合いました。  それぞれの福祉観を語り合いました
	1/26 13:30～15:30	グループワーク「私が出会った人について語り合う」 これまでの活動を通して出会った印象に残った人について話し合いました。
第2回	2/9 13:30～16:30	グループワーク「いろいろな人の人生に触れる」 今までもっていたイメージとの違いに気づきました。
第3回	2/23 13:30～15:30	グループワーク「スティグマを考える」  言葉による差別的なひびきや不快感について考えました。  衣装を着て、アメリカ社会での偏見を表現しました
	2/28 18:30～20:30	特別講義「福祉学習サポーターに求められる役割」 講師:原田正樹氏(東京国際大学専任講師)
第4回	3/9 13:30～15:30	グループワーク「共生について考える」 自分とは異なる価値観、生活背景をもつ人をいかに理解し、共に生きていくかについて話し合いました。
第5回	3/23 13:30～16:30	まとめ「自分なりに福祉を表現してみる」  6回の講座を受け、福祉についてどのように考えられるようになったかを整理。グループごとに、自分たちが考える「福祉サポート計画」を立ててみました。  福祉サポート計画の一例
	3/23 13:30～16:30	まとめ「自分なりに福祉を表現してみる」  6回の講座を受け、福祉についてどのように考えられるようになったかを整理。グループごとに、自分たちが考える「福祉サポート計画」を立ててみました。  福祉サポート計画の一例

#### 受講者が自主的な運営を始めています

勝山市社会福祉協議会 前事務局長 川村英夫さん

講座当初は、慣れないグループワークにみなさん戸惑っていましたが、現在は受講者自身で運営委員を選出し、体験先の施設に直接連絡を入れることもあるなど、自主的な運営へと発展しています。講座を通しての変化として、「幅広い福祉観をもてるようになった」ことがありますが、こうした自発性やグループとしての活動意欲こそサ

ポーターとして大切な要素だと思っています。

現在は、「子どもについて知る・考えてみる」「福祉制度とサービスの状況を知る、福祉の支え合いを知る・考えてみる」をテーマとする中期講座がすでに進行中です。グループワークでは今後の地域福祉をにらんで、ネットワークの強化を意識しつつ、「福祉学習プログラムを実際に考える」後期講座へとつなげていく予定です。

サポーターと社協の協働についてはこれからの検討課題ですが、福祉学習の受け皿となる人材の育成をめざして今後も学習を進めていきたいと考えています。

プログラム		
回	日時(毎土曜日)	内 容
第1回	1/26 9:30～11:30	「ボランティアって何? ~様々なボランティア活動を知ろう」 (講師:豊北町社協事務局長)  同町では初めての「ボランティアとは何か」についての講演。受講者全員が熱心に聞き入っていました。  初めての講演に受講者も真剣そのもの
	2/2 10:00～11:30	「子どもを理解しよう ~子どもに接するときに気を付けること」 (講師:小学校校長)  言葉がけやその方法・言葉の大切さがテーマのワーク。「実際に子どもたちと活動する際に、どのように接したらよいか」をみんなで学びました。
第2回	2/9 10:00～16:00	「子どもたちと一緒に活動してみよう ~子どもとふれあいを!」  子どもボランティア(小学生12名)と一緒に体験学習。受講者と子どもがグループに分かれ、ガラス工房でのアクセサリーづくりなどを楽しみました。
	2/16 10:00～11:40	「活動を振り返ってみよう ~先輩の話を聞いてみよう」 (講師:Vグループ代表)  実際に子ども支援のV活動を行っている方のお話しを通して、活動の留意点を学びました。また、受講者全員がこれまでの振り返りをし、講師からアドバイスも。

#### 今後の地域の変化が楽しみです

豊田町社会福祉協議会  
地域福祉係ボランティアコーナー  
ボランティアコーディネーター 竹永和江さん

当初はリーダー養成も視野に入れて企画を進めた本講座でしたが、「小さな町で専門的なことをするよりも、小地域らしい活動を地域住民が行う方が大切では」という検討委員からのご意見もあり、「導入部分」としての講座へと変更しました。講座には、福祉やボランティアに関心をもつ一般住民20名が参加し、うち19名が「とよたつ子サ

ポーター」として活躍しています。

具体的には、当社協で昨年11月から取り組んでいる「子どもボランティア」への参加協力。この取り組みは、地域の小学生たちが集まり、収集活動や自然体験などを行うもので、毎月1回実施。本年度は「福祉マップづくり」を計画しているため、サポーターの皆さんにはぜひ子どもたちを引っばっていただけるものと期待しています。ほかに、社協や公民館で開催する「子ども教室」に協力していただく予定もあるなど、サポーターが子どもと共に進める活動を展開することで、地域がどのように変化していくのか私たちも大いに楽しみにしています。

### 地域の誰もが参加できる 導入的なプログラム

とよたつ子サポーター養成講座  
(山口県豊田町社会福祉協議会)

#### 委員の意見をもとに講座内容を変更

豊田町社協では、平成11年度より「ふれあいのまちづくり事業」の指定を受け、様々な地域福祉活動に取り組んできた。そんななか、同事業の専門部会などにおいて「次代を担う子どもたちへの福祉教育の必要性」と、学校週5日制完全実施を前に、「地域がいかに子どもたちの受け皿となるべきか」が検討課題となっていた。

そこで昨年、「地域の福祉活動を担うリーダーを」と養成講座を企画。地域の福祉・教育関係機関・団体等の代表からなる委員会と講座の内容を検討するなかで、「最初から専門的な講座にしては、参加者が集まりにくいのでは」「既存のV講座にはない、若年層や多様な人材を集めたい」との意見によって軌道修正。

こうして、地域の誰もが気軽に参加でき、サポーター養成の導入を担うことを目的とする、同講座がスタートした。

#### 子どもと一緒に地域づくり

受講の募集に関しては、「和気あいあい」とした雰囲気にしたという思いから定員を20名とし、チラシを活用して広く一般の住民に呼びかけた。また、検討委員会に参画している公民館や民生委員・児童委員からの参加もあるなど、20才代から80才代までの幅広い年齢層の受講者が集まった。

受講者の中には、「V活動の経験のない方」や「子どもたちとの接し方が分からない方」もいたが、「講座をきっかけに、地域への関心が高まった」との意見も出るなど、「子どもたちと一緒に行う地域づくりのボランティア」としてこれからの活躍が期待されている。



# あなたのまちの福祉学習サポーターを育てよう！

実際にあなたの地域でも福祉学習サポーターを育ててみませんか。  
ここでは、あらためて福祉学習サポーターの役割について考えるとともに、  
講座のねらいと実施する際の留意点をポイントでまとめてみました。

## 福祉学習サポーターの役割ってなに？

### 1. 一市民の立場で福祉理解を広げる

福祉活動やV活動など、それぞれの活動フィールドを通して、「一住民・一市民」として客観的な立場で福祉理解を広げていく人。

### 2. 自分の適性に応じて、福祉についての学びを支援する

学校での福祉教育の授業やVセンターが行う講座など、地域の

福祉学習の場に参画する。さらに、福祉教育プログラムを企画する人と協力し、住民としての生活感覚や地域の福祉課題にふれている立場から、「情報提供者」「技術指導者」「評価者」などの学習支援者、講座企画者と一緒に学習プログラムをデザイン・実施する「協同実践者」として、いろいろな人の福祉について学びを支援していく人。

## 養成講座のねらいは？

### 1. 福祉と福祉教育への理解者・応援者を地域に増やしていく

「福祉を広げたい人＝福祉学習サポーター」たちを発掘し、サポーター同士のつながり、活動の核となる受け皿をつくる。地域の福祉教育指導者などをはじめ、福祉教育を推進する人々のネットワークをつくる。

福祉を学ぼう、福祉に関わろうという意欲をもつ人々をあたたく受け止め、支援しようという姿勢をもつ人々を増やす。

### 2. 福祉のまちづくりに参画する市民に、本格的な学習機会を提供する

地域の福祉やV活動、福祉制度やシステムについての生きた知識を身につけ、市民として福祉課題をとらえる視点や、地域

の現状を批判的に受け止め、課題解決につなげていく視野を養う。

多様な人に出会い、様々な現場を知ることによって、これまで自分が抱いていた福祉観やボランティアについての見方をあらため、広げていく機会になる。

### 3. 福祉学習の場に参画するための留意点を学ぶ

福祉学習の場に参加し、「情報提供者」「技術指導者」「評価者」など「学習支援者」としての役割を果たす際の留意点を学ぶ。

福祉学習の場において、講座企画者と一緒に学習プログラムを推進する「協同実践者」としての役割を自覚するとともに、そのための力量を身につける。

## 講座を進めるにあたっての留意点

### 1. 受講者は地域の中から幅広く

募集の対象者は、福祉学習のすそ野の広がりのために積極的に関わりたいという人々、社協の側から積極的につながりたい人々、または、ボランティア、障害当事者、民生委員・児童委員、地区社協役員など住民の福祉意識形成に影響を与える立場にあって、社協からよりよく機能してもらいたいと期待する住民などが考えられる。

### 2. 既存の講座を組み合わせることも一つの方法

講座のプログラムは、(1)「福祉について考える」、(2)「私のまちの福祉を知る」、(3)「福祉学習プログラムについて考える」を主なテーマとして分け、「講義」「グループワーク」「実習」を交えて進めることが望ましい。こうした講座を本格的に行うには長期的なプログラムになると考えられるので、例えば、(1)は一般のVスクールや既に活動している人の研修などで、(2)はVアドバイザー研修で、(3)は新たな研修を設けるなど、既存の研修や講座を組み合わせ、それらを全て受講した人にサポーターとして活動してもらうことも一つの方法である。

### 3. 地域の多様な機関・団体と協働し、講座を実施する

サポーター講座の主旨から、市区町村においての実施が望まれる。社協が実施主体となる場合は、社協職員だけで講座を進めるのではなく、Vグループ、学校、当事者団体、公民館、民生委員・児童委員など地域の様々な機関・団体に協働を呼びかけ、委員会を組織する。委員会には、講座の方向性やプログラムの内容などの企画をはじめ、サポーターとなる人材(受講参加する人材)の発掘や講師としての参加など、共催で実施することが望ましい。

### 4. 地域の特性に合わせた講座内容にする

福祉に対する社会環境や住民の意識、町の規模など、地域によって違いがあるので、まずは地域の特性を見極める。そのうえで、「どのような福祉のまちをめざすのか」あるいは「自分の地域にはどのようなサポーターが必要か」を考え、そうした地域の特性に合わせた講座内容にすることが大切である。

出典:「福祉学習サポーター等養成プログラム等開発委員会」研究報告書